

## 第6学年総合的な学習の時間学習指導案

日時 平成25年6月28日(金)2校時

指導者 教諭 阿部 真輝

場所 6年1組教室

### 1 単元名 「災害に備えて」

### 2 単元の目標

- (1) 様々なメディアから発信される地震に関する情報を的確に読み取ったり、他者に伝えたりすることができるように、地震に関する基本的な知識を身に付けさせる。
- (2) 災害から身を守るための行動や避難場所について理解させ、災害は避けることのできないものであっても、減災は可能だということに目を向けさせ、日頃から災害に備えた心構えや対応方法を身に付けさせる。
- (3) 避難所での生活について振り返り、役に立とうとする態度を育てる。また、みんなのためにどんなことができるかについて話し合うことを通して、普段の生活の中でも安全に気を付けて生活する態度を育てるとともに、周りの人を意識して行動する力を育てる。
- (4) 災害やその後の生活を自分の問題としてとらえ、実際の場面で重大な決断に迫られたときに自分で判断し、適切な行動ができる児童を育成する。

### 3 指導にあたって

(1) 児童の実態 省略

(2) 教材について

- ① 児童の実態を踏まえた上で、自然災害等の危険に際して、『自らの命を守ったり、他者と協力して行動したりすることができるように、「主体的に行動する態度」を育成する』ことに重点をおいて教材を選定した。これは、上学年部の手立ての(2)、「主体的に取り組ませるために、日常生活における様々な災害を意識させる場を設定する」と密に関わる事項である。自らの危険を予測し、回避する能力を高めたり、周りの状況に応じ、自らの命や他者の命を守り抜いたりする(自助・共助)ことが重要であると考えた。
  - ② 上学年部の手立ての(3)、『「防災副読本」の活用を中心とした年間指導計画を、実践を通して改善していく』ために、単元全体を通して防災副読本を活用し、児童に身に付けさせたい力の充実を図った。
  - ③ 「いのち」を大切にしたいという思いや考えを持たせるために、東日本大震災のことやそのときの避難所のことなど、児童にとって、身近で実態に即した題材を取り入れた。その際、児童の心のケアにも十分配慮しながら学習を進めていくようにする。
- (3) 防災教育としてのねらい
- ① 災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて、的確な判断の下に、自らの安全を確保するための行動ができるようにする。(自助)
  - ② 地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解できるようにする。(自助)
  - ③ 災害時には、ボランティアの活動が社会機能の回復に重要な役割を果たし得るものであることから、防災教育の柱の一つとして、ボランティア教育に取り組む。(共助)
  - ④ 災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができるようにする。(共助)

#### 4 指導計画

段階	活動名	主な学習内容	育てたい力
第1次 2時間	・地震のメカニズムを知ろう ・津波のメカニズムと災害	地震発生のしくみや地震に関する用語を理解し、情報を的確に読み取ることができる。	地震に関する情報を的確に読み取ったり、他者に伝えたりすることができる。 (いかす力)
第2次 1時間	災害に備える	・学校外で地震が起きた時に、危険を予測し回避する行動について考える。 ・地震への準備にはどのような物が必要かを考える。	災害は避けることのできないものであっても、減災は可能だということにも目を向けさせ、日頃から災害に備えた心構えや対応方法を身に付けさせる。 (みとおす力)
第3次 1時間 (本時)	もし学校が避難所になったら～自分達にできることを考えよう～	災害発生時における避難所の生活を理解し、自分達にできることを考える。	避難所で自分ができることを考え、地域で生きる一員としての自覚と地域社会の安全に貢献する意識を高める。 (かかわる力)
第4次 1時間	あなたはどっち？(災害時の行動選択)～クロスロードゲーム～	災害発生時の生活を自らのこととして考え、意思決定や行動選択ができる。	実際の場面で重大な決断に迫られたときに、適切な行動ができる。 (うごく力)

#### 5 本時の学習指導

##### (1) 本時のねらい

- ・災害発生時における避難所の生活を理解し、自分たちにできることを考える。

##### (2) 指導過程

	学習活動(予想される児童の反応※)	留意点・支援(◎) 評価(■) 指導形態(△)
導入 5分	1 本時の学習課題について知る。 「震災の時、避難所で困ったことや、周りの人がどのようなことで困っていたかを考えましょう。」	◎震災のことを思い出し、ストレスにならないように、声掛けをしながら話を進める。
	2 地震災害後の避難所暮らしで起こる状況を出し合い、ライフラインが使えない生活を考える。 ※住む家がなくなる。 ※電気、ガス、水道、電話が止まる。 ※食事を作る事ができない。 ※お風呂や水洗トイレに入れない。 ※家が壊れて住めなくなる。 ↓ ○学校や市民センターが避難所になる可能性があることを知る。	◎短冊(黄)に個々に書かせ、黒板に仲間分けしながら貼る。 ◎災害時には、ライフラインが壊れてしまう可能性があることを説明する。 ◎意見が出ない場合は、写真を見せて状況を想像させる。 ◎地域の避難所や学校が、避難所に指定されていることを確認する。 ◎短冊に書かれた意見を教師が仲間分けをしながら黒板に貼る。 △個別

展 開	35分	<p>3 学校等が避難所になり，家族と避難している時の状況を振り返り，必要な仕事をグループで考える。</p> <p>※水や食べ物をみんなに配る仕事。          ※避難所に届いた救援物資を分けたり，配ったりする仕事。          ※小さな子供のお世話をする仕事。          ※お年寄りのお世話をする仕事。          ※避難所の掃除やゴミ集め・ゴミ捨ての仕事。</p> <p>4 避難所の中に暮らしている一員として自分たちができることを考え，発表し合う。</p> <p>※ゴミ捨てなら自分にもできそう。          ※みんなが気持ちよく生活できるように掃除をしたい。          ※何ができるか分からないが，困っている人を助けたい。</p>	<p>■ライフラインが停止することを知り，学校等が避難所になったときの生活を思い出したり，考えたりすることができたか。</p> <p>◎短冊（青）に個々に書かせ，黒板に仲間分けしながら貼る。          ◎当時は3年生だった児童なので，他の人に助けってもらったことの方が多かったと思うので，「今の自分だったら人に対してできることは？」と投げ掛ける。もしくは，避難所で回りの大人たちがしていた仕事を思い出させる。          ◎避難所でどんな仕事が必要か考えさせる。          ◎児童から意見がでないときは，災害時のボランティアの活動例を紹介する。          △話し合いグループ</p> <p>◎「避難所にいる〇〇が～できるように，…をする」という形式でまとめさせる。</p> <p>■避難所でどんな仕事が必要か知り，自分達にできることを考えることができたか。          △個別</p>
	まとめ 5分	<p>5 災害後の暮らしで大切なことを確認する。</p>	<p>◎「自助」と「共助」の話をして，地域で生きる一員としての自覚を持ち，みんなで助け合うことの大切さを意識させる。</p>

(準備物) ネームペン・防災副読本・筆記用具 (児童) ワークシート・指定避難所の看板の写真・短冊 (教師)

### (3) 評価

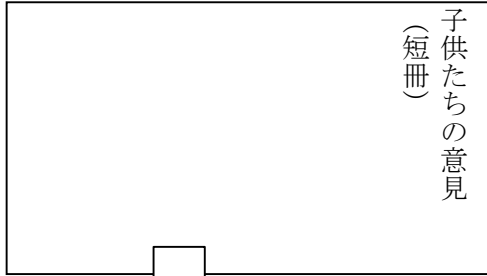
具体的評価基準	災害発生時における避難所の生活を理解し，自分達にできることを考えることができたか。
十分満足できる状況	避難所生活で自分達にできることを十分に考え，他の人々や集団，地域の安全に役立つとする意欲を持つことができたか。
Cへの手立て	災害発生時に，他の人に助けられたことや，してもらって嬉しかったことを，振り返ることができるように声掛けをする。

(4) 板書計画

◎災害にそなえて

地震発生後、困ったことは？

子供たちの意見  
(短冊)



↓  
学校がひなん所になる

避難所の写真

ひなん所で自分達にできる、必要な仕事を考えよう

Aグループの  
考え

Bグループの  
考え

Cグループの  
考え

Dグループの  
考え

ひなん所に暮らしている一員として…

ひなん所にいる  が ~ できるように…… をしたい。